

水産の窓

親潮系冷水が流入し、極めて冷たい海況が持続

22年-No.2

(平成22年4月海洋観測結果及び今後の見通し)

平成22年4月13日
茨城県水産試験場

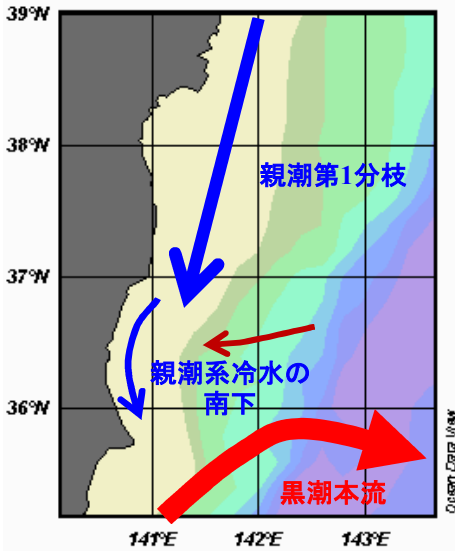


図1 海況の概要

今月の概況

今月の海況の概要は図1の通りです。4月上旬現在、親潮第1分枝が本県海域付近まで南下しており、親潮系冷水が沿岸域に大きく流入しています。一方で、黒潮は房総半島に接岸傾向で東方へ流去しています。

平成22年4月6日～9日に調査船「いばらき丸」により海洋観測を実施しました。水深100mから見た本県海域の海況は以下のとおりです。

※水深100mは海洋構造の把握に適していると考えられています。

※図の黒点は観測点です。また、塩屋埼定線は福島県水産試験場によるものです。

①水温は3～15℃台となりました(図2)。前月と比べると、北部沿岸域を中心に降温しました(図3)。また、平年と比べると最大で-7℃低く、ほぼ全ての海域で「低め」となりました(図4)。

②塩分は33.2～34.4PSU台の濃度が分布し、特に33.5PSU以下の低い濃度が沿岸域や北部海域を中心に広く分布しました(図5)。

その他の特徴は以下のとおりです。

③水温を鉛直的に見ると、2～19℃台(全海域)が分布し(図6)、前月と比べると、最大で-7℃で沿岸域を中心にして大きく降温しました(図7)。また、平年と比べると犬吠埼沖を除いて全ての水深帯で「低め」となりました(図8)。

この原因は、北方からの親潮系冷水が沿岸方向に差し込んだためと考えられます。一方で、犬吠埼沖は黒潮流路が前月に比べて接岸基調になったことから、平年に比べて海面付近や沖合域を中心に「高め」となりました(図9)。

④塩分を鉛直的にみると、33.1～34.7PSU台(全海域)でした。特に北部海域を中心にして全水深帯で34.0PSU以下がほとんどで、低い塩分濃度が広く分布していました(図10)。

⑤灘寄りの海域は逆潮でした。一方で、南部海域は北東方向へ強い潮流が見られました。

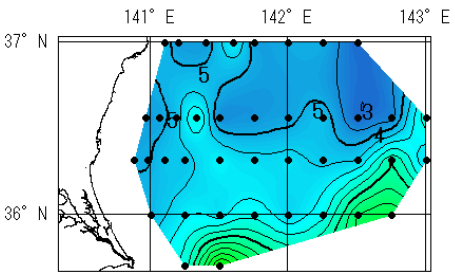


図2 100m深水温(℃)

今後の見通し(1ヶ月程度)

・親潮第1分枝は本県海域に達している模様です。今後の親潮の勢力は強い状態が続く見込みで、今後も親潮系冷水が波及するでしょう。

・黒潮は蛇行部が東進し、房総半島沖で流路変動すると予測されますが、本県海域に強く暖水を波及させるものではないでしょう。

・気温の上昇により海面付近は徐々に升温してくるでしょう。

・水温を平年と比べると「低め」で推移するでしょう。

(海洋漁業部 小日向)

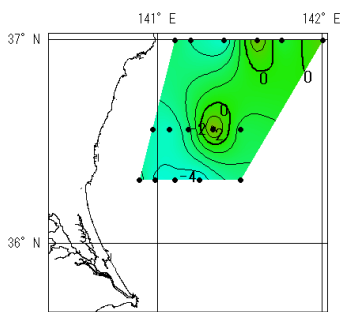


図3 100m深水温前月差(℃)

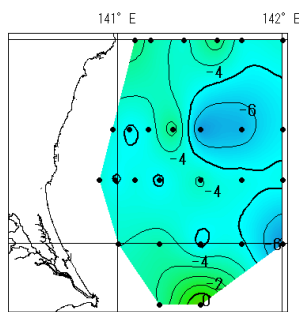


図4 100m深水温偏差(℃)

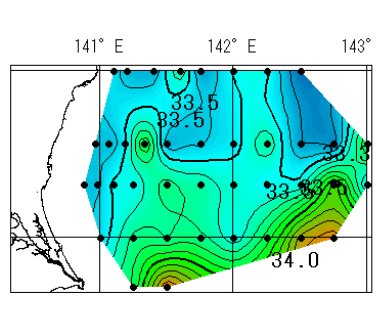


図5 100m深塩分(PSU)

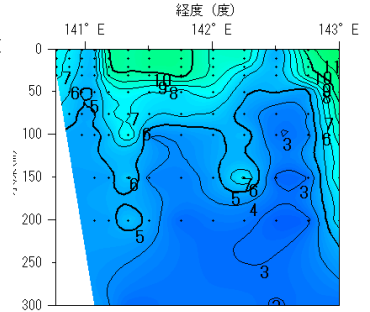


図6 会瀬沖鉛直水温(℃)

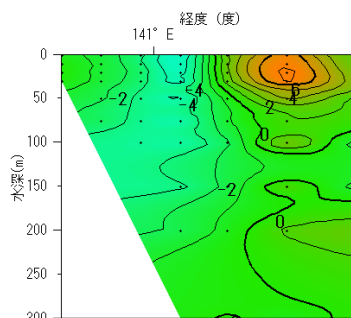


図7 会瀬沖鉛直水温前月差(℃)

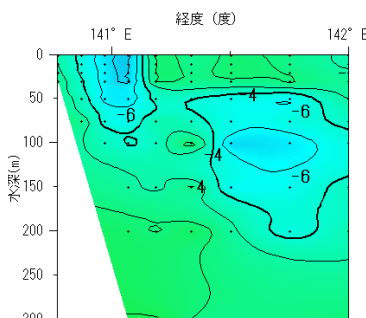


図8 会瀬沖鉛直水温偏差(℃)

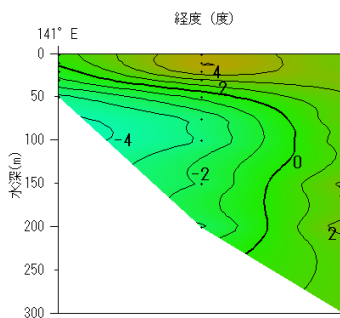


図9 犬吠埼沖鉛直水温偏差(℃)

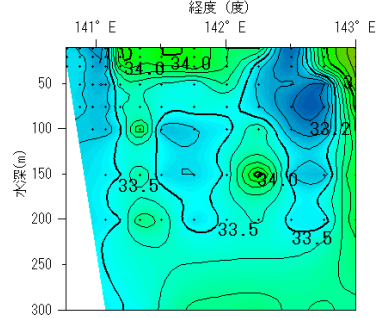


図10 会瀬沖鉛直塩分(PSU)

海洋観測コンター図(等値線図)を水産試験場ホームページに掲載しています。ご覧になるには「茨城県水産試験場のホームページ」→「海洋漁業部のページ」→「海洋観測コンター図」の順番でアクセスして下さい。